

# 農家婦人のパートタイム就労の実態とその類型

農家婦人のパートタイム就労に関する研究(その2)

Actual Conditions of Part-time Employment and those Classification—  
Study on Part-time Employment of Farmhouse Woman-part II

三橋 伸夫\*・野崎 あけみ\*\*・岡村 純\*\*

Nobuo MITSUHASHI・Akemi NOZAKI and Jun OKAMURA

## I はじめに

前編においては農家婦人の就業状態について統計調査と松任、川越両地域における実態調査から分析を行い、農外就労歴の類型を設定して、農家婦人の就業状態を規定する条件について検討し、農家婦人のパートタイム就労(以下、パートと略す)の発生メカニズムを把握した。本編は、引き続き両地域での実態調査にもとづいて、農家婦人のさまざまな就業状態のなかで現在急増しつつあるパートについて、その労働条件からみた実態および他の雇用形態の農外就労(恒常的勤務、臨時的勤務)との差異、ならびに労働諸条件の中の勤務形態に着目したパートの類型化について報告し、農村地域におけるパート概念の検討を行う。なお、研究・調査方法については前編<sup>1)</sup>を参照されたい。

調査地の事業所立地に関する概要を述べると、松任市では昭和30年以降、JR松任駅周辺や国道8号線沿いに、車両・機械をはじめ窯業・繊維・食料品など約10社の工場が誘致され、商業的活動も次第に活発になってきた。さらに、農地転用による大規模工場団地の造成など農村工業導入促進施策(昭和49年から61年までに77社進出)など、多くの事業所が立地するようになった。大規模住宅団地の開発があって、人口も市制施行(昭和45年)以来一貫して増加傾向にあり、金沢市のベッドタウン的な性格を帯びてきている。

川越市は埼玉県西部の経済的な中心地として工業が盛んである。昭和40年代になって大規模な住宅地開発が行われ、東京のベッドタウンとしての性格を強めて人口の伸びが著しいが、同時に川越狭山地区工業団地などの開発が並行して行われた。近年、東京との間の鉄道交通が改善され、関越自動車道の開通にも影響されて、こうした傾向にいっそうの拍車がかかった。市内全域にわたって事業所の立地が増加しつつある。

## II パート雇用事業所の事例

まず調査地内に立地するパート雇用事業所に対して行ったききとり調査<sup>2)</sup>の結果にもとづいて、パート雇用事業所の事例を述べる(表1)。

調査対象7事業所の業種はいずれも製造加工であり、川越で従業員規模は大きい。事業所ごとのパートタイマー採用開始時期は、松任の方が昭和40年代から行っているのに対して、川越では昭和50年前後からとやや遅い。事業所の規模が大きいほど一般に従業員に占めるパートタイマーの割合は遅れて高まったという全国的傾向<sup>3)</sup>を反映している。いずれの事業所も採用開始時と比べて現在ではパートタイマーは大幅に増加している。

採用にあたっての事業所側の考慮事項は、年齢、健康、休暇のとり方などで、平均勤続年数で見ると、1年未満から長く4~5年程度となっている。事業所側からみた雇用上のメリットとしては、①低賃金で雇用できる、②仕事量に応じた雇

\* 宇都宮大学工学部 Faculty of Engineering, Utsunomiya Univ.

\*\* 農村生活総合研究センター Rural Life Research Institute

表1 農家婦人を雇用する事業所

Tab. 1 Examples of Enterprise Farmhouse Woman Employed

事業所名	S r 事業所	S k 事業所	T 事業所	N 事業所	H 事業所	Y 事業所	U 事業所
地 域	川越市	川越市	川越市	川越市	松任市	松任市	松任市
1. 事業所の概要 ・事業の種類	・通原機用ワラの製造 ・産業機器(自動機 器)用電源装置の製造 専務 製造部門 (製造では電源巻き)	・ビーズが、*部品組立 ・幼児用玩具組立て ・折置みか/分製造 製造(組立て7ヶ)	・おカトドマが製造	・野菜加工、食品下 ごしらえ ジャガイモ芽むき、 タマネギ皮むき	・日本たばこの包装 用紙の作製 (印刷・検品) 印刷物の検品(印 刷り穴等の作り)	・各種味噌の製造 ・味噌加工品製造 ・味噌加工品製造 味噌の運搬、袋つめ	・電子部品*が添付け ・基板部品の*付け ハンダづけ
・パートタイムからの従業業務	株式会社 昭和46年	株式会社 昭和49年	株式会社 昭和52年	有限会社 昭和59年	株式会社 昭和45年	株式会社 昭和39年	有限会社 昭和59年
・事業所の形態	昭和46年	昭和49年	昭和52年	昭和59年	昭和45年	昭和39年	昭和59年
・事業所開設年	昭和46年	昭和49年	昭和52年	昭和59年	昭和45年	昭和39年	昭和59年
2. 事業所の労働者 ・種類別労働者数	男123 女110 計233 ・正社員 男123 女 61 計184 ・パートタイム 男 0 女 49 計 49	男120 女 75 計195 ・C社員(正社員) 男100 女 10 計110 ・B社員(パートタイム) 男 20 女 65 計 85 ・A社員(7M/Fト)	男 32 女 35 計 67 ・正社員 男 32 女 4 計 36 ・パートタイム 男 0 女 31 計 31 ・他に短期間パート	男 1 女 14 計 15 ・正社員 男 1 女 0 計 1 ・パートタイム 男 0 女 14 計 14	男 31 女 17 計 48 ・正社員 男 20 女 12 計 41 ・嘱託 男 2 女 5 計 7	男 10 女 17 計 27 ・正社員 男 10 女 2 計 12 ・パートタイム 男 0 女 15 計 15	男 0 女 13 計 13 ・パートタイムのみ 男 0 女 13 計 13
・パートの採用開始時期	昭和48年頃から 数人→49人	昭和50年代になって 5→85人(4年前150人)	昭和52年から 10→31人	昭和59年(設立当初) 1→14人	昭和45年から 不明	昭和43年頃から 2→15人	昭和59年(設立当初) 3→13人
・パート従業員数の変化	3年(長くて7,8年)	2年くらい	4、5年	4年で何人かやめる 他の人は続いている	1年未満1人~23年 2人までさまざま	1年未満かずっと	設立以来3人しかやめ ていない
・パートの平均勤続年数	季節によらず同じ	季節によらず同じ	夏期は少ない	季節で異なる	季節によらず同じ	季節によらず同じ	季節によらず同じ
・パート従業員数の季節性	平均は40歳前後 50歳以上はいない	40歳台後半が多い	平均は44.5歳 40歳台が最も多い	30歳台4、40歳台5 50歳台5名	平均は38歳前半 27歳~48歳	最も若い人30歳~ 最も高齢の人54歳	30歳台1、40歳台4、 50歳台8名
・パートの年齢層	9:00~15:30 8時間 時給550円	9:15~18:15 8時間 時給500~570円	9:00~17:00 8時間30分 時給570円	8:00~17:00 6~8時間 時給500円	8:20~16:35 7時間30分 時給570円	8:15~17:15 7時間15分 時給500円	8:00~17:00 7時間50分 時給500円
3. パートタイム ・労働時間 ・労働条件	9:00~15:30 8時間 時給550円	9:15~18:15 8時間 時給500~570円	9:00~17:00 8時間30分 時給570円	8:00~17:00 6~8時間 時給500円	8:20~16:35 7時間30分 時給570円	8:15~17:15 7時間15分 時給500円	8:00~17:00 7時間50分 時給500円
・社会保険	労災保険	不明(D.K.)	扶養控除希望しない 専台年金、雇用保険	なし(労災保険も) 専台年金、雇用保険	健康、厚生年金、雇用 労災の各保険	健康、厚生年金、雇用 労災の各保険	なし

用調整が正社員に比べて容易、の二点が挙げられる。逆にデメリットは、①一斉に休む傾向がある、②責任感が弱く、忙しい時に休むなど休暇のとり方が非計画的である、などであるという。

賃金や身分保証などの待遇の面で、同一企業内での正社員との格差、また事業所規模の大小による格差は厳然としてある。パートに対する雇用者側の雇用保険の義務づけなどパート労働者の保護の動きがある中で「パート」という名称を避ける事業所もでてきている<sup>4)</sup>。

### Ⅲ 農家婦人パートの実態

次に農家婦人パートの実態について、パート農家婦人対象の第二回配票調査の結果を中心に述べる。有効回答数は123である。また、パートの特徴を浮き彫りにするために、農家婦人全体の第一回配票調査の結果から農外就労として該当者の多い雇用形態であることが判明した恒常勤務（恒常勤と略す）および臨時的勤務（臨時勤と略す）との相違にもふれる。なお、有効回答数は恒常勤が138、臨時勤が182、パートが159である。

#### 1 パートの職種ならびに職場・雇用条件

##### (1) 職種

パートの職種は多様である。「日本標準職業分類」を参考にした15分類によると表2のようである。松任では製造業や単純労働への従事が多く、川越で小売業やサービス業への従事が多い傾向がある。また、全体として製造加工業が多いが、松任に比べて川越の方が職種はより多岐にわたっている。川越の方が雇用労働市場が大きいと考えられる。恒常勤、臨時勤、パートを比較すると(図1)、恒常勤は「事務」(54.3%)「製造加工」(21.0%)と事務が多いのに対して、臨時勤ではそれぞれ22.0%、33.0%、パートでは11.9%、60.4%となって製造加工が多くなる。臨時勤が最も多様な職種にわたっていると考えられる。

##### (2) 職場の従業員規模

パートの職種の多様さを反映して、従業員規模にはおおきな幅がある。全体の規模分布のモードは10~29人にあるが、地域別では松任が10~29人

であるのに対し、川越は100~499人と大きい。

#### (3) 給料・年間収入

給料の計算方法は「時給」がもっとも多く松任75.9%、川越98.6%を占める。松任では「日給」も24.1%とかなりの割合を占めている。「日給」による給与は、勤務時間があらかじめ固定している製造業への勤務に多い。日給や月給をすべて時給に換算した時給額でみると、松任は「500~550円未満」が40.7%で最も多いのに対して、川越では「550~600円未満」が44.9%と最も多い。全体の分布も正規分布的で、両地域に差が認められる。

他の雇用形態と比較すると、恒常勤が「月給」(100%)、臨時勤が「日給」(47.3%)、パートが「時給」(87.4%)と明確な相違があり、それは年間収入の歴然とした差に反映する(図2)。カテゴリーの中央値をとって平均値を算出すると、恒常勤227万円、臨時勤152万円、パート79万円となる。後でふれる一日の勤務時間や勤務の通年性・季節性を考慮しても格差は大きいといわざるを得ない。収入のみならず、ボーナス支給の有無、有給休暇の有無、各種社会保険加入の有無などの労働条件で恒常勤とパートには大きな格差があり、臨時勤は両者の中間に位置する。

#### (4) 現在の勤務の開始年、転職、就職の経緯

現在の勤めを開始したのは「昭和55~59年」(3~7年勤続)が約1/3を占めて最も多い。次いで「昭和60年以降」(同3年未満)が3割弱である。地域的には川越において昭和54年以前の占める割合がやや高いとともに、分布の幅が大きい。結婚後、勤め先をか変わった回数では、「かわらない」がどちらも1/3を占めて最も多いが、一方「3回以上」も1/4ある。

現在の勤務先への就職のきっかけは「親せき・知人」を通じてという回答が4割を占めて最も多く、地縁に依拠したパート婦人の就業経緯の特徴を示している。なお、川越では「求人広告」も4割を占めて「親せき・知人」をやや上回り、また松任では「経営主から直接頼まれて」が1/4を占めて地域的な特徴もみられる。

表2 農家婦人パートタイマーの職種

Tab.2 Occupational Classification of Farmhouse Woman's Part-time Employment

	松任	川越	計
1) 一般事務員	6 (11.1)	8 (11.6)	14 (11.4)
2) その他の事務従事者	1 (1.9)	2 (2.9)	3 (2.4)
3) 商品販売従事者	3 (5.6)	4 (5.8)	7 (5.7)
4) 電気機械器具組立・修理作業	8 (14.8)	6 (8.7)	14 (11.4)
5) 製糸・紡織・裁断・縫製作業者	6 (11.1)	1 (1.4)	7 (5.7)
6) ゴム・可塑性製品製造業者	0 (0.0)	5 (7.2)	5 (4.1)
7) 飲食料品製造業者	2 (3.7)	5 (7.2)	7 (5.7)
8) それ以外の技能工・生産工程作業	4 (7.4)	6 (8.7)	10 (8.1)
9) 包装工	11 (20.4)	9 (13.0)	20 (16.3)
10) 荷造工	2 (3.7)	2 (2.9)	4 (3.3)
11) それ以外の単純労働者	6 (11.1)	2 (2.9)	8 (6.5)
12) 対個人サービス職業従事者	0 (0.0)	2 (2.9)	2 (1.6)
13) それ以外のサービス職業従事者	3 (5.6)	8 (11.6)	11 (8.9)
14) その他	2 (3.7)	9 (13.0)	11 (8.9)
計	54	89	123

(注) 一般事務員/電話対応・伝票整理、記帳  
 その他の事務従事者/現場事務所での伝票整理・雑用  
 商品販売従事者/スーパーマーケットのレジ係  
 電気機械器具組立・修理作業/電気部品の配線作業  
 製糸・紡織・裁断・縫製作業者/ブラウスの部分縫い、ホビンの糸巻き  
 ゴム・可塑性製品製造業者/プラスチック製品の検査・仕上  
 飲食料品製造業者/サンドイッチ製造、食肉加工  
 それ以外の技能工・生産工程作業/電子部品の検査、シール印刷補助  
 包装工/スーパーマーケットの鮮魚パック詰め、味噌の袋詰め  
 荷造工/プラスチック製品の箱詰め  
 それ以外の単純労働者/建築型枠解体手伝い、  
 対個人サービス職業従事者/喫茶店でのトイレ、飲食店の店員  
 それ以外のサービス職業従事者/建設機械整備、結婚式場披露宴係

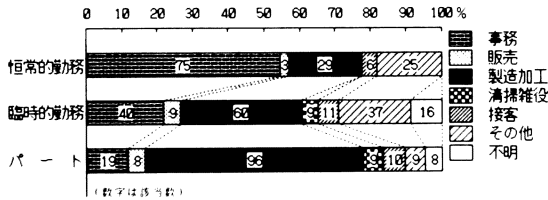


図1 パートの職種

Fig.1 Occupational Classification of Part-time Employment

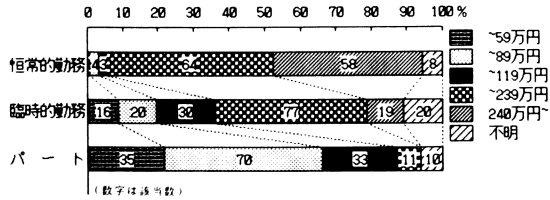


図2 パートの年収

Fig.2 Annual Income of Part-time Employment

## 2 通勤時間、勤務時間および勤務形態

### (1) 通勤時間

交通手段は松任と川越で大きく異なる。松任では「自家用車」が63.0%と過半数を超え、次いで「自転車」の18.5%である。川越では「自転車」が47.8%、「自家用車」が26.1%となる。しかし、通勤時間でみると両者に大きな差はない。「5分未満」こそ松任48.1%、川越23.2%と異なるが、両者とも10分未満の累積ではほぼ7割、15分未満ではほぼ9割を占めて差はない。パートはこのように身近なところに勤め先があることが特徴で、通勤時間「15分未満」の割合は恒常勤が57.2%、臨時勤が69.2%、パートが78.0%である(図3)。パートでは勤めの選択の基準として、自宅からの近さが重要な点になっている。

### (2) 勤務拘束時間

一日の勤務拘束時間は、当然、パートと他の二者で大きな差がある。恒常勤と臨時勤は過半数が「8時間」であるが、パートでも32.7%が8時間以上となっている。これを詳しくみると分布に大きく二つのモードがあることがわかる(図4)。一つは「5～6時間」であり、これは本来のパートであるが、もう一つは「8時間」で、恒常勤と差のないフルタイム労働である。地域的には松任に多い。松任で製造業が多く、川越で小売・サービス業が多いことと関連する。製造業の組み立てライン従事のような場合には、パートとはいってもライン稼働時間に拘束されるからである。

したがって、松任では平日勤務の開始時刻は「8時台」が52.0%と最も多く、終了時刻は「17時台」に集中する(62.0%)。土曜日も休日でない割合、あるいは土曜日でも平日と同じ勤務時間である割合はいずれも川越を上回る。これに対し、川越では開始時刻は「9時台」が59.7%、終了時刻は16時台(32.3%)と「17時台」(49.2%)に分散する。日曜日に勤務する割合はそれが定期的勤務の場合は差がなく、両地域とも5%にとどまるが、不定期の場合については小売・サービス業の多い川越で14.5%を占めて多い。なお、臨時勤ではほぼ1/3が勤務開始時刻が不定である。

### (3) 勤務の通年性・季節性

勤務が通年的か季節的(勤務しない月がある)かで分けると、「通年」が松任81.5%、川越85.5%と大半を占める。松任でやや「季節」の占める割合が高い。

休暇の内容は大きく農繁期の農作業、および子どもの学校関係の用事に集中する。このうち農作業のための休暇日数をみると、両地域とも日数の分布は大きくひろがっている(表3)。農作業のために休むという回答は両地域ともほぼ2/3を占め、15日未満の累積率で46.3%、20日未満の累積率で53.8%とほぼ半数になる。60日以上も10例あるが、これは季節的な勤務も含まれる。

恒常勤、臨時勤と比較してみると(図5)、パートは臨時勤に近いが、農繁期に勤めを休む、季節的勤務もある、という特徴がもっとも強まる。

## 3 パート農家婦人の就労意識

現在の勤務先を選んだ理由では、「近い」が両地域とも過半数を占め、他の理由はいずれも少数である。通勤時間の実態との対応を示している。

農外の勤めを続けている理由では、恒常勤、臨時勤、パートとも「収入を得るため」が最も割合が高いことで共通するが、恒常勤では「能力が生かせる」が次に高く仕事重視なのに対して、パートでは「農作業に手がかからない」「家族の世話に手がかからない」という余った時間の活用という志向が読み取れる。臨時的勤務はそのどちらでもなく、収入重視の志向といえる。

パートタイマーを選んだ理由では、「都合の悪いときいつでも休める」が最も高い割合を示し、以下、「家事、育児の都合にあわせられる」(30～39歳に多い)「農業もある程度したい」(同40～54歳)「農業を中心にしたい」(同40～49歳)と続く。地域差は少なく家族内の役割分担や農業経営に配慮した意識が共通してみられる。

今後の働き方では、「できれば正社員になりたい」という回答が松任で約1/4を占めて川越を大きく上まわる。年齢的には「30～34歳」が最も多いが、若い層に限定されていない。前編で検討した出産中断型の農外就労歴である婦人に多い。

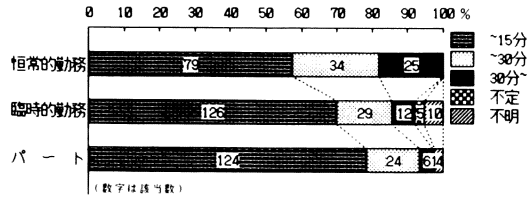


図3 パートの通勤時間

Fig. 3 Time Occupied on Commuting of Part-time Employment

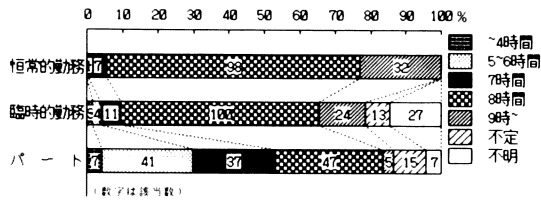


図4 パートの勤務拘束時間

Fig. 4 On-duty Hours of Part-time Employment

表3 農作業のためにパートを休む年間日数(パート農家婦人)

Tab. 3 Number of Absent Days for Farming in a Year (Farmhouse Woman of Part-time Employment)

	9日未満	10~14日	15~29日	30~59日	60日以上	不明	非該当	計
松任	13 (24.1)	5 (9.3)	8 (14.8)	5 (9.3)	3 (5.6)	0 (-)	20 (37.0)	54
川越	11 (15.9)	8 (11.6)	13 (18.8)	5 (7.2)	7 (10.1)	2 (2.9)	23 (33.3)	69
計	24 (19.5)	13 (10.6)	21 (17.1)	10 (8.1)	10 (8.1)	2 (1.6)	43 (35.0)	123

(注) ( )は地域ごとの構成比: %

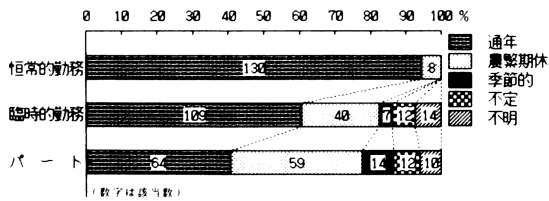


図5 パート勤務の通年・季節性

Fig. 5 Presence of Seasonal Absence of Part-time Employment

#### 4 農外就労の多様化とパート

農家婦人のパートの職種は多岐にわたり、地域差を伴いながらも多様な勤務形態となっている。都市近郊の松任では主として製造業が中心であり、大都市近郊の川越では雇用労働市場の広さを反映して小売・サービス業も多くみられる。勤務形態の上で最も大きな地域差は勤務時間であり、松任では恒常勤と同じフルタイムでの労働、川越では本来的な短時間労働が主流である。フルタイム労働と短時間労働とでは、朝の勤務開始時刻に際立った差があり、パート農家婦人の年齢は30～40歳台が中心となることから、これが家事労働への影響の違いとなることが予想される。

恒常勤と比較した場合、勤務時間に差がない場合が少なくないにもかかわらず、パートと恒常勤との間には、給与や社会保険などの労働条件の面で格差があることは、事業所調査結果と同様に農家婦人を対象とした配票調査から確認された。その就労意識も大きく異なることが明らかとなった。そしてパートの場合は、育児期の終了と前後して就労を開始する、ということが松任にも川越にも共通する一般的な特徴として指摘できる(表4、表5)これは都市地域のパートと共通する<sup>5)</sup>。一方、農家婦人パートの特質のひとつは農作業

表4 雇用形態と農外就労類型との関連(松任)  
Tab.4 Relation between Employment Condition and Type of Employment History (Matsuto)

	出産中断型	育児後就労型	計
恒常的勤務	80 (87.0)	11 (12.1)	91
臨時的勤務	64 (58.1)	50 (43.0)	114
パート	17 (28.8)	42 (71.2)	59
計	161 (61.0)	103 (39.0)	264

表5 雇用形態と農外就労類型との関連(川越)  
Tab.5 Relation between Employment Condition and Type of Employment History (Kawagoe)

	出産中断型	育児後就労型	計
恒常的勤務	23 (65.7)	12 (34.3)	35
臨時的勤務	11 (23.9)	35 (76.1)	46
パート	4 (5.5)	69 (94.5)	73
計	38 (24.7)	116 (75.3)	154

のための休暇ならびに農閑期を中心とした季節的就労に求められるが、これは農家の農業経営規模および経営内容と関連しており、都市にはみられない特徴である。また、パートと並んで、恒常勤と同じ勤務時間ながら収入など労働条件の上で大きな格差をもった臨時的勤務も広汎に存在し、全体として多様な雇用形態となっていることも農村的な特質といえよう。

#### IV 農家婦人のパート類型

##### 1 パートの類型化

次にパート農家婦人を対象とした第二回配票調査の結果にもとづいて、その勤務形態に着目したパートの類型化をはかる。そして、類型別特徴の検討を通して農村地域における農家婦人のパートの特質を明らかにする。勤務形態に着目したのは、就労実態のうちで勤務形態が最も家庭生活や農業経営、農村生活への影響が大きいと考えたからに他ならない。

勤務形態として、①勤務の通年性・季節性、②平日の勤務拘束時間、③農作業のために勤務を休む年間日数、の三項目を選定し、以下の図6のような5類型を設定した。勤務拘束時間8時間はフルタイムとパートタイムとを区分する一般的な基準と考えられているからであり、農作業のための休暇日数15日は、農作業で休むパート婦人の該当数をほぼ二分する基準になっているからである。

類型化の結果、総サンプル数123のうち、最も多かったのは「通年フルタイム型」で、以下「通年短時間型」、「農繁期休業フルタイム型」、「季節型」、「農繁期休業短時間型」の順であった。地域別では、川越において本来的な意味での短時間型が多く、松任では通年フルタイム型が多い傾向にある(表6)。

##### 2 類型別の就労の特徴

類型設定の基準となった3項目以外に、類型間でどのような就労実態の差異があるかを検討する。

表6 農家婦人パートの類型化

Tab.6 Classification of Part-time Employment of Farmhouse Woman

	通年フルタイム型	農繁期休業フルタイム型	通年短時間型	農繁期休業短時間型	季節型	その他不明	計
松任	18 (33.3)	9 (16.7)	12 (22.2)	3 (5.6)	8 (14.8)	4 (7.4)	54
川越	15 (21.7)	11 (15.9)	17 (24.6)	10 (14.5)	8 (11.6)	8 (11.6)	69
計	33 (26.8)	20 (16.3)	29 (23.6)	13 (10.6)	16 (13.0)	12 (9.8)	123

(注) ( )は地域ごとの構成比：%

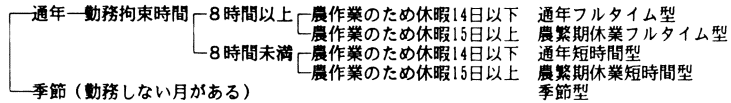


図6 農家婦人のパート就労類型

Fig. 6 Classification of Farmhouse Woman's Part-time Employment

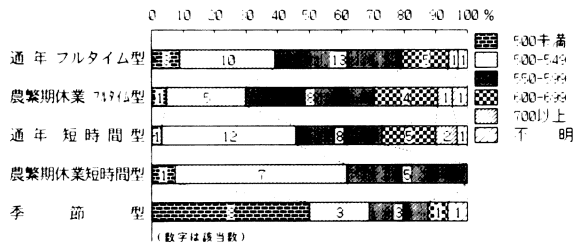


図7 類型別パートの時給額

Fig.7 Sum of Payment by the Hour of Part-timer by Type

(1) 職種

職種の相違の第一点は通年型と農繁期休業型・季節型との間にみられる。前者には事務職がみられるが、後者は製造加工が主である。第二点は短時間型にみられるもので、サービス業が多いことが特徴となる。第三は農繁期休業フルタイム型で顕著にみられるもので、いわゆる単純作業労働が多いことである。季節型もこれに類似する。勤務先の従業員規模には相違はみられない。

(2) 通勤手段ならびに通勤時間

通勤手段で特徴的なことは、通年型において特に自家用車の占める割合が高いことである。これは年齢が相対的に若いためもあるが、同時に通年フルタイム型では通勤時間の節約を図る必要があるためとも考えられ、結果として、この型で通勤

時間が最も短い傾向にある。逆に農繁期休業短時間型は通勤時間が長い傾向を示す。時間面で余裕があるとみられる。

(3) 年間収入と時給額

配偶者控除が受けられる基準である年間90万円(調査時点)で区切ってみると、この額を超える割合は通年フルタイム型59.4%、農繁期休業フルタイム型35.0%とフルタイム型で高い割合を示し、以下、通年短時間型17.2%、農繁期休業短時間型15.4%、季節型12.5%となる。時給額では就労が不安定な「季節型」で最も低く、「農繁期休業短時間型」がこれに次ぐ(図7)。なお、給料計算方法では、いずれの類型も大半が「時給」であるが、農繁期休業フルタイム型30.0%、季節型18.8%などは、やや「日給」の割合が高い。



(4) 社会保険加入

社会保障の点でみると同じパートタイマーでも類型によって格差が存在しているが、通年型、わけても勤務形態の上で恒常的勤務に最も近い通年フルタイム型で相対的に加入割合が高い<sup>6)</sup>。

(5) 有給休暇

有給休暇のある割合は通年フルタイム型28.1%、通年短時間型27.6%と通年類型に高く、農繁期休業短時間型15.4%、農繁期休業フルタイム型15.0%と続き、季節型が6.3%と最も低い。

(6) ボーナス支給

ボーナスを支給される割合は通年フルタイム型40.6%、通年短時間型37.9%と通年型に高く、農繁期休業フルタイム型30.0%、農繁期休業短時間型23.1%と続き、季節型が18.8%と最も低い。

以上のように、同じパートであっても労働条件の面で大きな差があることがわかる。

3 パート類型と属性との関連

それでは、このようなパートの類型はどのような農家婦人属性と結びついているのか。パートの多様な勤務形態を成立させている婦人側の条件をその属性から探ることとする。

(1) 年齢

婦人の年齢を大きく20~34歳(若年)、35~49歳(中年)、50~59歳(老年)の3つの年齢層に分けると、各類型ごとの年齢的な特徴が把握される(図8)。まず第一は若・中年層に多い型で、これは通年フルタイム型、通年短時間型という通年型が該当する。第二は中年層に多い型で、これは農繁期休業短時間型が該当する。第三は中・老年層に多い型で農繁期休業フルタイム型と季節型が該当する。

(2) 家族状況

家族状況のうち婦人本人の勤務形態に影響すると考えられるものとして、ここでは①乳幼児の有

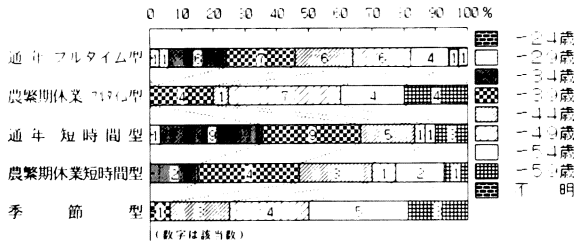


図8 類型別パートの年齢構成

Fig. 8 Age structure of Part-timer by Type

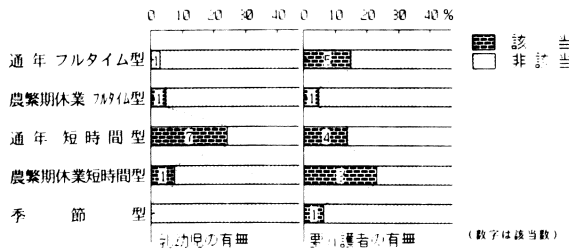


図9 類型別パートの乳幼児・要介護者の有無

Fig. 9 Presence of Infants and the Handicapped Part-timer took care of by Type

無、②介護必要者の有無③配偶者（夫）の雇用形態④母親の有無、⑤家族形態の5点について検討する。まず、乳幼児（0～3歳）の有無では、通年短時間型のみ該当率が高いことが注目される（図9）。4～6歳でも6例(20.7%)にのぼる<sup>7)</sup>。他の類型については少数にとどまる。乳幼児をもつライフステージにある若年のうち、実際に育児期にある母親が通年短時間型の勤務形態をとっている構図がみえる。

要介護者の有無では、通年フルタイム型、通年短時間型、農繁期休業短時間型がそれぞれ1割を超える（図9）。短時間型のほか通年フルタイム型も該当するが、いずれも家族構成に大きな差がないことから、若年・中年型および中年型というライフステージの共通性と考えることができる。

配偶者の雇用形態が恒常的勤務である割合は通年フルタイム型、通年短時間型で高く、農繁期休業フルタイム型、農繁期休業短時間型の農繁期休業型で相対的に低い。年齢ならびに農業経営のウエイトの高さと関連していると考えられる。

母親の有無をみると、通年フルタイム型で有る割合が75.8%と高く、季節型で31.3%と低い。通年フルタイム型は母親が家事や育児を分担することによって成り立っている側面をもつといえる。

家族形態は全体では核家族が22.0%であり、拡大家族が78.0%である。パート類型のうち核家族の多い類型は農繁期休業フルタイム型（30.0%）、季節型（37.5%）である。ともに年齢的には中・高年型であって、あととりがまだ結婚していない拡大家族への移行準備期にある世帯と考えられる。したがって、この類型では婦人本人が家事担当者で、かつ農業従事者でもある割合が高いといえる。

### (3) 農業経営

本人の農業従事者の割合（図10）は、農繁期休業型が高いのは当然であるが、季節型93.8%、通年フルタイム型60.6%、通年短時間型51.7%といずれも過半数を超える。農家婦人全体では63.4%であるのに対し、パートのみでは70.0%とやや高い。農業への従事が農外就労の際にパートを選択

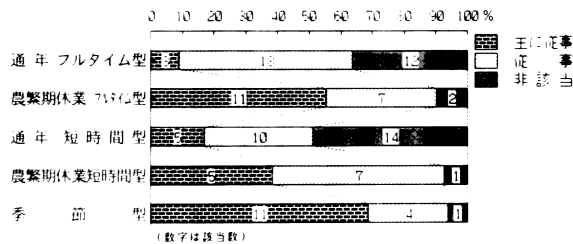


図10 類型別パートの本人の農業従事

Fig. 10 Occupying with Agriculture of Part-timer by Type

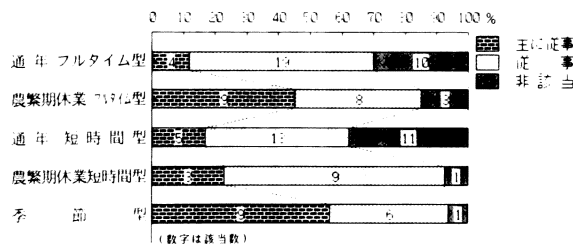


図11 類型別パートの配偶者の農業従事

Fig. 11 Occupying with Agriculture of Part-timer's husband by Type

する一つの要因であることを示唆する。配偶者の農業従事状況（図11）も、従事程度は婦人本人のそれと強く関連し、類型によって同じ傾向を示す。

農業経営への従事人数との関係を見ると、農業従事者1人の経営は季節型（87.5%）、農繁期休業フルタイム型（75.0%）という中、高年層から構成される類型に多く、逆に、3人以上の経営は通年フルタイム型、通年短時間型という若・中年層から成る通年型に多い。

農業経営規模を稲作付面積でみると（図12）、農繁期休業フルタイム型、季節型で比較的面積の大きい割合が高い。農繁期休業短時間型は面積が大きい経営から小さいものまで幅広く分布する。通年フルタイム型、通年短時間型の通年二類型で小さい経営の占める割合がやや高い。

農産物販売金額では（図13）、農繁期休業フルタイム型と季節型で300万円以上の経営が占める割合が高くなっている。通年短時間型で販売なし

や100万円未満の占める割合が高い。

以上のように、婦人のパート類型は年齢、家族状況、農業経営と密接に関連している。

#### 4 類型別の就労意識

属性分析に次いで、類型による就労意識の差異を検討する。就労意識としては、パートを選んだ理由、今後の働き方、定年以外で勤めをやめる理由の3点からとらえる。

パートを選んだ理由からは類型は大きく三つの観点で括られる（図14）。ひとつは「農業を中心にしたい」「農業もある程度したい」という農業考慮タイプで、これは農繁期休業フルタイム型、農繁期休業短時間型、季節型に多い。勤務形態と意識の対応がみられる。次は「都合の悪いときいつでも休める」という休暇考慮タイプで、これはいずれの類型でも高い割合を占めているが、特に上記の農業考慮タイプの多い、農業との関わりの強い三類型に高い。最後は「家事、育児の都合に

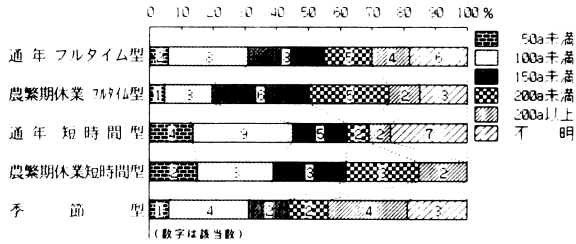


図12 類型別パート農家の水稲作付面積  
Fig. 12 Area under Cultivated Paddy Fields of Part-timer Farmhouse by Type

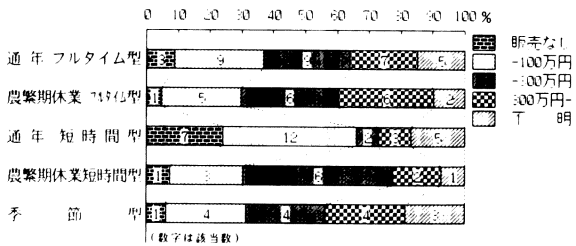


図13 類型別パート農家の農産物販売金額  
Fig. 13 Amount of Selling Agricultural Products of Part-timer Farmhouse by Type

あわせられる」という家事育児考慮タイプで、  
 通年短時間型がとりわけ高い。通年フルタイム型で  
 も1/3強が該当するが、実際はフルタイム就労  
 でパートのメリットが生かされていない。なお、  
 結婚後勤め先を変えた回数を図15に示す。就労の  
 不安定な季節型が最も回数が多く、通年短時間型

が最も少ない。短時間型の本来のパートで比較的  
 安定した勤務となっていることが推測される。

今後の働き方では、「できれば正社員になりた  
 い」とする割合は通年フルタイム型と通年短時間  
 型の通年二類型で1/4前後認められる(図16)。  
 先のパートを選んだ理由で「適当な正社員の仕事

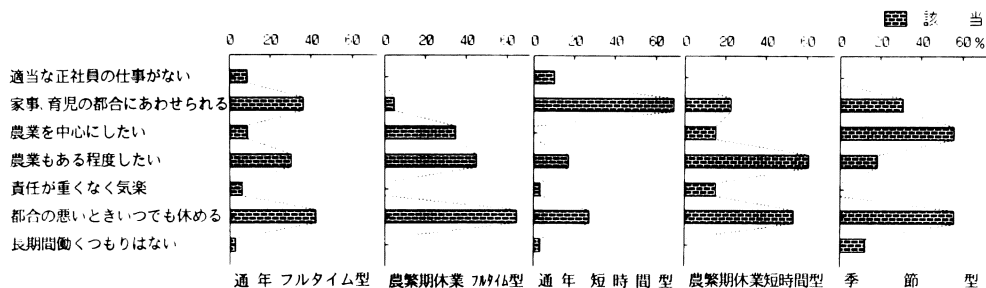


図14 類型別パートを選んだ理由

Fig. 14 Reason Why Part-timer chose her Employment by Type

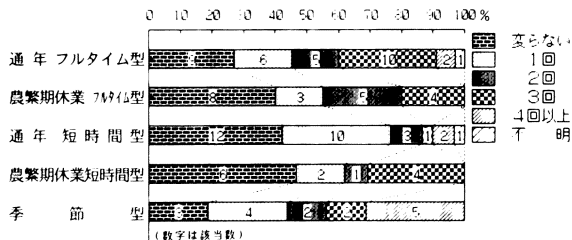


図15 類型別パートの結婚後に勤めを変った回数

Fig. 15 Frequency of changing Employment after Marriage by Part-time Employment Type

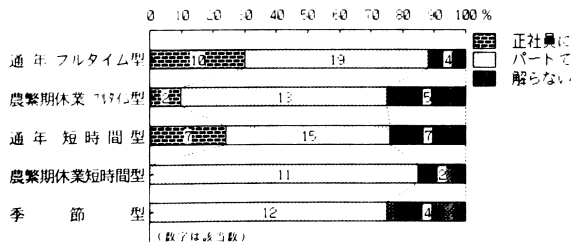


図16 類型別パートの今後の働き方意向

Fig. 16 Intention How Part-timer Work for the Future by Type

がないから」が同じ類型に少しみられるが、これと対応する意識である。

今後定年以外で勤めをやめる理由では、「親の介護が必要になったとき」がどの類型にも共通して高い回答になっている。これ以外では大きく二つの理由が類型を特徴づけている。一つは農業面と家事面に共通する人手の問題である。「家事を手伝う人がいなくなった場合」「自家農業で人手が必要になった場合」について農繁期休業フルタイム型、農繁期休業短時間型、季節型という農業との関わりが相対的に強い三類型で回答割合が高い。二つ目は勤務条件の問題で、「他によい勤めが見つかった場合」について通年フルタイム型、通年短時間型の通年二類型で回答割合が高い。この場合は収入の問題も含まれようが、通勤時間など時間面での条件も意識されているよう。

#### 5 類型の判別分析

最後に、検討したパート類型と属性・意識との関連分析を総合化するために、数量化2類による判別分析を行った。就業状態判別の外的基準は二通り設定した。第一は、年間での勤務形態からみた①通年型、②農繁期休業型、③季節型の3カテゴリーであり、第二は、平日の勤務時間からみた①フルタイム型、②短時間型の2カテゴリーである。分析に用いたアイテムは農家婦人側のものに限定し、個人属性、世帯（家族、農業経営）属性、そして意識属性である。

分析結果を表7に示す。まず、年間での勤務形態に寄与するアイテムとしては、本人の年齢と農業に対する意識である。高齢層で農繁期休業型や季節型の勤務形態が多くなり、また、パートの理由として「農業を中心にしたいから」という意識が非通年型に多くなるのがわかる。一方、平日の勤務時間に寄与するアイテムは乳幼児の有無、農産物販売金額、農業従事者数である。乳幼児がいる場合は短時間型の就労となること、農産物販売金額が少ない世帯や農業従事者の少ない世帯でフルタイム型となること、が示される。

以上のように、パート類型が婦人の属性や意識と関連していることが数量的にも明らかとなった。

#### V まとめ

農村地域に限らず、雇用者側からみた婦人のパートタイマー雇用の論理は、低賃金かつ雇用調整の容易な労働力、ということである。農村地域におけるパート就労は恒常的勤務と比較して同じ勤務時間の場合が多く、その場合でも給与やその他の労働条件の面で劣った、身分不安定な状況におかれている。同じパートであっても、雇用事業所の従業員規模によっても、勤務時間や契約上の権利保障、福利厚生などの面において格差が存在している。大都市近郊で就業機会に恵まれている場合には、より労働条件のよい事業所を選択することも可能であるが、農村地域一般についてみればむしろ選択の余地は少ないとみるべきであろう。農村地域には、目雇い等の臨時的勤務とあわせて、恒常的勤務との格差および事業所規模による格差という、二重の労働条件格差のもとに形成された婦人パート労働が存在している。

一方、これを婦人側からみると、同じパートではあっても、婦人の個人、世帯条件や就労意識と密接に関連した多様な勤務形態を選択している、とみることができる。前編で検討したように、広く農家婦人のさまざまな就業状態は婦人側の条件によって規定されていた。パートだけをみても同様のことがいえるのである。その規定条件とは、本人の年齢、家族条件（乳幼児・要介護者・母親の有無、家族形態）、農業経営条件（農業従事者、農業経営規模）などであった。それらの相互関連の中で、年間の勤務形態での通年性や季節性の相違、農繁期休業の有無、一日の勤務時間での短時間とフルタイムの相違が表われている。相対的に若い婦人では母親と家事や農業を分担しつつ、主に育児に考慮した通年型が選択されている。これに対し、中高年の婦人では家事や農業とも両立させる農繁期休業型や季節型が多くなっている。

すなわち、農村地域における農家婦人のパートタイム就労は、雇用事業所側の低賃金で雇用調整の容易な労働力としての調達という志向と、農家婦人側の農外就労と家事育児や農業経営との両立という志向との一致の上に成立している就業形態であるとなることができよう。

表7 パートタイム農家婦人の判別分析

Tab.7 Discriminant Analysis on influential Conditions of Farmhouse Woman's Part-time Employment

分析枠組み		通年-農繁期休業-季節			フルタイム-短時間			
アイテム	カテゴリー	サンプル数	カテゴリー数量(1軸)	レンジ(係数*1)	サンプル数	カテゴリー数量(1軸)	レンジ(係数*1)	
個人属性	本人の年齢	20~34歳	15	-0.0884	0.3640 (0.294)	15	0.0814	0.1429 (0.142)
		35~49歳	39	-0.0861		33	-0.0615	
		50~59歳	17	0.2756		14	0.0675	
世帯家族属性	母または嫁の同居	あり	52	-0.0198	0.0741 (0.074)	47	0.0243	0.1122 (0.109)
		なし	19	0.0543		13	-0.0879	
世帯家族属性	0~3歳の子(孫)同居	あり	9	-0.0631	0.0723 (0.054)	9	-0.4831	0.5684 (0.405)
		なし	62	0.0092		51	0.0853	
	要介護者の同居	あり	9	0.1369	0.1588 (0.111)	8	-0.0002	0.0002 (0.000)
		なし	62	-0.0199		52	-0.0000	
	配偶者の農業従事	主に従事	19	0.0802	0.1095 (0.090)	14	-0.0593	0.0774 (0.067)
		それ以外	52	-0.0293		46	0.0181	
配偶者の恒常的勤務	主に従事	30	-0.0131	0.0227 (0.020)	27	-0.1159	0.2107 (0.218)	
	それ以外	41	0.0096		33	0.0948		
世帯農業経営属性	水稲作付け面積	~50a未満	8	-0.0765	0.0938 (0.065)	7	0.0186	0.0726 (0.069)
		~100a未満	20	0.0171		16	-0.0236	
		~200a未満	32	0.0156		29	0.0224	
		200a以上	11	-0.0208		8	-0.0502	
世帯農業従事者数	100万円未満	29	-0.1109	0.1995 (0.160)	24	-0.2265	0.4607 (0.336)	
	300万円未満	21	0.0886		19	0.0765		
	300万円以上	21	0.0645		17	0.2342		
意図属性	今後の働き方	1人	39	0.0477	0.2168 (0.193)	28	-0.0310	0.4128 (0.338)
		2人	17	-0.1598		17	-0.1663	
		3人以上	15	0.0570		15	0.2463	
意図属性	家事育児の都合にあう	正社員に	13	-0.0539	0.1352 (0.119)	13	0.1550	0.2673 (0.205)
		どちらとも	10	-0.0998		8	-0.1123	
		パートのまま	48	0.0354		39	0.0286	
	農業を中心にする	はい	26	-0.0953	0.1503 (0.135)	22	-0.1298	0.2050 (0.213)
		いいえ	45	0.0550		38	0.0752	
	農業もある程度する	はい	13	0.5859	0.7172 (0.469)	8	0.1312	0.1514 (0.108)
いいえ		58	-0.1313	52		-0.0202		
都合悪い時休める	はい	25	0.1536	0.2371 (0.197)	23	-0.0769	0.1247 (0.122)	
	いいえ	46	-0.0835		37	0.0478		
地域	松任	はい	36	0.1290	0.2617 (0.273)	30	-0.0012	0.0024 (0.003)
		いいえ	35	-0.1327		30	0.0012	
外的基準	固有价值	川越	38	0.0547	0.1176 (0.115)	31	0.0211	0.0446 (0.043)
		松任	33	-0.0629		29	-0.0225	
外的基準		通年型	37	0.5562	フルタイム型		32	0.4503
(注)*1: 偏相関係数		農繁期休業型	23		短時間型		28	
		季節型	11					

### 参考文献

- 1) 農村生活総合研究センター「農家婦人のパート就労と生活展開」, 生活研究レポート28, 1989
- 2) 三橋伸夫, 野崎あけみ, 岡村純「農家婦人のパートタイム就労に関する研究(その1~3)」, 農村計画学会学術研究発表会要旨集, 1990, 1991
- 3) 「農家婦人の就業状態とその規定条件」農家婦人のパートタイム就労に関する研究その1, 三橋伸夫・野崎あけみ・岡村純, 『農村計画学会誌』Vol.10, No.4, 1992. 3

### 注

- 1) 参考文献3)
- 2) パート農家婦人対象の面接ききとり調査で複数の婦人が就業していることが判明した事業所を選定

した。

- 3) 「パートタイムの現状」, 労働省婦人局, 1985
- 4) 川越の一事業所では, アルバイト(主に学生)がA社員, パートがB社員, 正社員がC社員という名称を昭和62年から採用している。
- 5) 例えば, 古郡頼子, 金子信介「パートタイマーにみる女子労働力の現状と将来」(『雇用職業研』, 19, PP55-73, 1982)など。
- 6) 最も加入割合の高い通年フルタイム型でも, 雇用保険18.8%, 健康保険37.5%, 厚生年金・共済年金37.5%で, 全く加入なしは53.1%にのぼる。農繁期休業短時間型および季節型ではすべて全く加入なしである。
- 7) 乳幼児はほとんどの場合婦人本人の子どもであっても, 孫という例はきわめて少ない。

This study is concerned with the part-time employment of farmhouse woman. Part-time employment, looked on one of the employment style shifting from agriculture to another, cause influences not only on household management but also on agricultural management, rural community, and so on. This paper (the second article) deals mainly with actual conditions of various farmhouse woman's part-time employments and those classification in order to verify the characteristics of part-time employment in rural areas. Two study areas for investigation are both in the same way as the first article. Using the questionnaire and hearing, information was collected concerning farmhouse woman's employment.

The characteristics of part-time employment in rural areas can be summarized as follows.

- 1) Occupational classifications show variety mainly in manufacturing industry.
- 2) 2/3 of part-timers are absent from work for farming during busiest season.
- 3) Part-timers are employed enterprises nearby their residence.
- 4) 1/3 of part-timers are the same on-duty hours as "full-timer"
- 5) Most of part-timers are under inferior conditions (e. g. annual income, paid holidays, social insurance) to regular, full-time employee.

From a viewpoint of on-duty hours in a day and absent days for farming in a year, part-time employments are classified into five types, such as the whole year & full-time, the absence for farming & full-time, the whole year & part-time, the absence for farming & part-time, and the seasonal employment. Through analysis on characteristics of these types, part-time employment of farmhouse woman have intention being compatible with non-farming employment and household affairs, nursing of infants, agricultural management.

(1991年6月3日 受理)

(1991年11月18日 再受理)